

# 令和4年度 奈良市における平城京の調査研究

相原嘉之・森山そらの

## 1. はじめに

奈良大学文学部史学科に考古学研究室が設置されたのは昭和49年（1974）である。その後、文化財学科が昭和54年（1979）に設置され、考古学研究室は文化財学科へと移された。考古学研究室創設後から、全国各地で教員と学生による発掘調査や学生を発掘現場に派遣し、調査を実施してきた。これは学生の考古学的知識・技能の向上を目的として、現地調査に携わる人材を育成する教育的意義と、各地で激増する発掘調査の実施への地方公共団体からの要請があったからである。

このような観点から、昭和49年度に実施した神戸市吉田地区の遺跡調査をはじめ、現在でも斑鳩町や栃木市での発掘調査を毎年継続している。本学のある奈良市内の平城京跡においても、過去に15件程度の調査を実施してきた。しかし、大学が主体となる発掘調査では、現地調査後に出土品の整理を行い、報告書を刊行することは、学業との両立や、学生の卒業によって滞り、報告書が未刊行なものも多い。調査参加者が卒業後も出土品の整理を地道に継続し、報告書を刊行したものもあるが、未刊行なまま残されているものもある。

本学の卒業生でもある相原が、令和2年（2020）に奈良大学着任したことを契機に、整理途中で留まっていた過去の発掘調査の報告書作成を、調査に参加していた卒業生の助言を得て計画した。そこで文化財学科学生有志の参加を得て、出土品の再整理と報告書作成を実施することになった。この作業は、将来文化財の専門職員を目指す学生にとっても有益なことであり、さらに卒業生と協働して行うことは、卒業生・在校生の交流を生むことになると考える。

出土品整理の経過については後述するが、当時の調査参加者の助言を得るものの、30年以上も前の発掘調査であることや、当時の調査状況を知らない教員・学生による再整理であること、宝来キャンパスから高の原キャンパスへの大学移転や倉庫移転に伴う出土品の度重なる移動などから、令和3年（2021）度は、出土品及び関係書類の確認作業から始めた。その後、令和4年（2021）度から、本格的に整理作業を実施した。

なお、本研究は、令和4年度奈良大学特別研究（地域課題解決型プロジェクト共同研究）に採択され、大学からの助成を受けている。

（相原）

## 2. 令和3年（2021）度 準備作業

### 準備作業の概要

過去に奈良大学が行った平城京内の発掘調査記録は、大学構内に散逸していた。そのため、資料の確認と保管状態の確認をおこなった。その結果、遺構平面・断面図、遺物実測図、写真は遺跡ごとにまとめられており、トレース、レイアウトが未完成の状態での保管されていることを確認した。また、出土品は約500箱の

コンテナに収納されていた。これらは考古学実習室、ドライエリア、文化財倉庫に分散して収納されており、キャンパス移転等の際に仮置きしたまま未整理だったと考えられる。出土品は、その多くが洗浄済みであったものの、一部未注記や紙箱の劣化による散乱を確認した。このことから、再整理が可能である状態なのかを確認することを目的として、保管資料の把握をおこなうこととなった。

#### 作業の経過

作業は、令和3（2021）年度から開始し、週に1回程度、長期休暇中には1週間ほどのまとまった期間を設けて実施した。まず4月からは、文化財倉庫内のコンテナの把握と収納配置図の作成をおこなった。8月には倉庫整理と並行して、図面類の把握作業に着手した。翌年の2月からは写真整理をおこない、1年間で把握できた記録資料と遺物の保管状態を一覧にしてまとめ、3月中旬には以上の作業が終了した。（森山）

### 3. 令和4年（2022）度 整理作業

#### 整理作業の概要

令和3年度の作業によって、平城京の再整理が可能であるという判断に至った。これによって、未報告遺跡のうち、一部は平城京右京三条四坊内に複数箇所あることが分かった。そこで令和4年度では、平城京右京三条四坊内の遺跡をまとめて報告することを念頭に、図面、遺物（約120箱）の再整理を実施することとなった。主な遺跡は、平城京右京三条四坊六坪（通称：ベターライフ）、七・十坪（通称：西川）、十五坪（通称：マクド・山崎屋・ガソリンスタンド）である。通称名は、発掘調査原因となった開発行為に由来するもので、当時から通称名として使用していた。

#### 作業の経過

作業は、週に1回、長期休暇中には1～2週間ほどのまとまった期間を設けて実施した。再整理にかかる準備として令和4（2022）年3月末から作業に着手した。まずは調査地の全容を把握するため、遺構平面図原本を1/100スケールの縮図を作成した。4月からは、前年度に得た情報から調査地の正確な位置を現在の地図に落とし込む作業を実施した。また、5月からは、再整理の参加者を増員し、出土品の洗浄と再分類をおこなった。洗浄は遺跡単位でおこない、一遺跡終了ごとに出土品の再抽出をおこなった。6月には、池田裕英氏（奈良市教育委員会）に当時調査状況をうかがうことができ、さらに上垣幸徳（滋賀県教育委員会）・岡田雅人（草津市教育委員会）の両氏からも、当時の調査についてのご教示いただいた。令和5（2023）年1月現在、西川・マクド・山崎屋・ガソリンスタンドの土器の洗浄・再抽出が終了した。（森山）

#### 調査参加者

##### 2021年度（所属は当時）

佐野詩音（以上、文学部4年生）、内田菜々子、小田祐亮、新田井一輝、瀬部和宏、辻本知潤、森山そらの（以上、文学部3年生）、松田青空（以上、文学部2年生）

##### 2022年度（所属は当時）

内田菜々子、小田祐亮、新田井一輝、瀬部和宏、辻本知潤、森山そらの（以上、文学部4年生）、行天就要、後藤弘一郎、原田岳、松木研太、松田青空、山内悠雅（以上、文学部3年生）、植木実果子、押田詩織、中村日和、則包遙菜（以上、文学部2年生）